【草花の部屋】

ジャガイモ（ナス科ナス属　Solanum tuberosum L.）

和名：ジャガイモ(馬鈴薯)　別名：　バレイショ(馬鈴薯)　　英名：potato

ナス目　多年草　　原産地：南アメリカ

花言葉：恩恵、慈愛、慈善、情け深い　　花色：赤、白、紫

← 写真-１　ジャガイモの花
撮影日：2019 年 05 月 08 日
撮影場所：大和郡山市郊外にて
撮影者：M　さん

→　写真-２　ジャガイモの葉
撮影日：2019 年 05 月 08 日
撮影場所：大和郡山市郊外にて
撮影者：M　さん

大和郡山市郊外の家庭菜園で見かけました。特別、珍しい植物ではありませんが・・。

直立する地上茎は 50cm から 1m 程度の高さにまで生長し、葉は奇数羽状複葉。葉の付け根から花茎が長く伸び、先端に多数の花をつけます。花は星形で黄色い花心と 5 枚の花弁をもち、色は品種によって異なります。

受粉能力は低く、品種や条件によっては受粉してミニトマトに似た小型の実をつけますが、落果しやすく完熟に至るものは極希だそうです。果実の中には種子があり、これを発芽させて生長させることも可能で、ジャガイモの交配はこの種子を利用して行われます。が、これを親株と同様の大きさ程度にまで育てるには 3 年(3 代)程度かかるため、草本性植物としては交配に時間のかかる植物のようです。

世界中では約 2,000 種類もあるとされ、日本では、99 品種が登録されています。ジャガイモの品種には人気なものには、メークイン、男爵、キタアカリなどがあります。

地下茎は種芋より上(地表に近い位置)にでき、イモに日光が当たると、皮が緑化して有毒なソラニンが生成されるため、ジャガイモを収穫するためには、この肥大する地下茎を日光に晒さないように土寄せ等が必要になります。ソラニンは、吐き気や腹痛、頭痛などを引き起こすため注意が必要です。また、ジャガイモは連作障害が発生しやすいので要注意です。ジャガイモに限らず、ナス科の植物は基本的にこの性質を持ち、例えばジャガイモの後にナスを植えた場合にも連作障害を起こす場合があるそうです。

「ジャガイモ」という名称については、17 世紀初めにジャワのジャガトラ(ジャカルタ)からもたらされたことから「ジャガタライモ」と呼ばれたものが変化して「ジャガイモ」になったとか、ジャワ島の芋の意味のジャワイモが変化したもの等、諸説があるようです。馬鈴薯(ばれいしょ)という呼び名もよく用いられますが、これは中国での呼び名の一つと漢字が同じで、中国語で読むとマーリンシュー(mǎlíngshǔ)となります。ジャガイモの形が馬につける鈴に似ているということから、この名前になったという説もあるそうです。

ジャガイモは南米アンデス中南部のペルー南部に位置するチチカカ湖畔が発祥とされているそうで、最も初期に栽培化されたジャガイモは Solanum stenotomum と呼ばれる染色体数 24 本の二倍体のもので、その後四倍体の Solanum tuberosum が栽培化され、現在世界中で広く普及するに至ったとされているそうです。このジャガイモがヨーロッパ大陸に伝えられたのは、インカ帝国の時代、15 世紀から 16 世紀頃だそうですが、「いつ」「誰が」伝えたのかについて不明で、スペイン人がジャガイモを本国に持ち帰ったのは 1570 年頃で、新大陸の「お土産」として船乗りや兵士たちによってもたらされたものだろうといわれているそうです。

日本へは 1598 年にオランダ人によってジャワ島のジャガタラを経由して伝来したとされているそうです。